

# 身近な生きもの調査結果報告

## 1. 調査概要

### 1.1 調査目的

安曇野市環境基本計画策定の一環として、市内の身近な自然に関する基礎的情報の収集を目的とした。

### 1.2 調査方法

調査は、平成 19 年度に市民参加型の方法で行った。

調査手引き書（図 1.2.1）を一般市民や学校等の団体に配布し、手引き書で紹介した生きもの確認情報を添付したはがきで送付いただいた。種の位置情報は手引き書に掲載した 3 次メッシュ図を基に該当するメッシュ番号を記入いただいた。

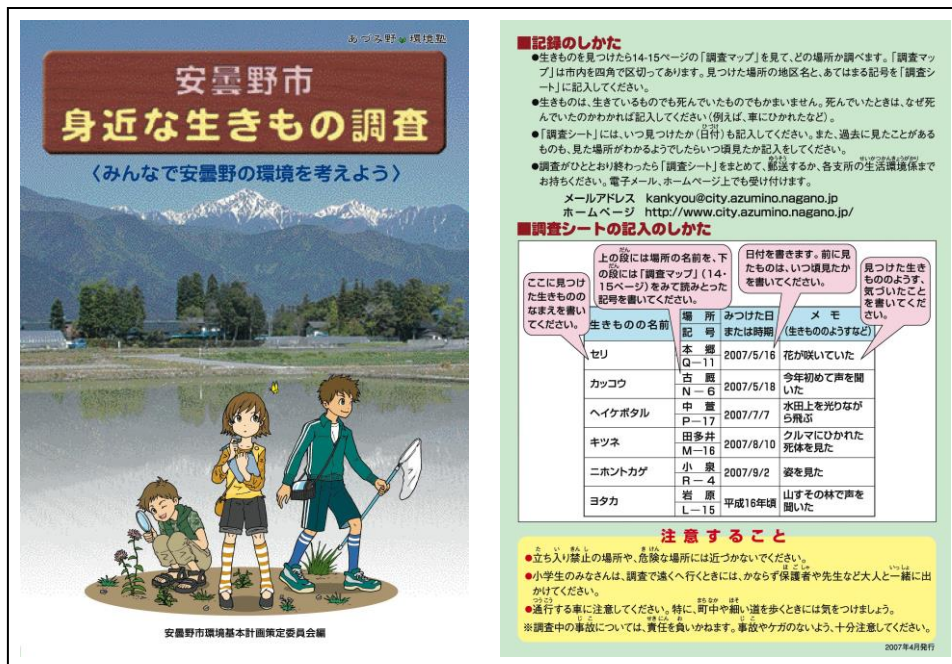


図 1.2.1 調査手引き書

### 1.3 調査対象種

調査対象種を表 1.3.1 に示す。対象種は、安曇野市の環境の指標となり、一般市民にも親しみのある種や、識別が比較的容易な 33 種とした。

そのほか、比較的身近な種であるものの市内での生育・生息状況の実態が不明な種や、国内での分布が拡大している外来種など 5 種についても情報を集めた。

表 1.3.1 調査対象種一覧

調べる生きもの		季節	生育・生息場	調べて分かること	
植物	シナノタンポポ	春	山・里	山や里の自然の豊かさ	
	セイヨウタンポポ	春～秋	山・里	都市化や人の手の入り具合	
	シロバナタンポポ	春	里	多くないタンポポの状況を知る	
	アレチウリ	夏	川	外来植物の広がっている様子	
	セリ	春～夏	水田・水路	農薬をあまり使わない田んぼや土の水路の自然の豊かさ	
	バイカモ	夏	川	水のきれいさや水底・川周りの自然の豊かさ	
	ウツボグサ	夏～秋	山・里	山や里の自然の豊かさ	
	ワレモコウ	秋	里	管理の行われた草地の自然の豊かさ	
	サワガニ	春～秋	溪流・水路	水のきれいさや山と川の自然の豊かさ	
	カワニナ	春～秋	川・水路	農薬をあまり使わない田んぼや水路の自然の豊かさ	
水生生物	カジカ	通年	川	水のきれいさや水底・川周りの自然の豊かさ	
	ドジョウ	通年	川・水田	農薬をあまり使わない田んぼや土の水路の自然の豊かさ	
	シマドジョウ	通年	川	水のきれいさや水底・川周りの自然の豊かさ	
	ホウネンエビ	春～夏	水田	昔ながらの田んぼの自然の豊かさ	
	ツマグロヒョウモン	春～秋	山と里の草地	もともと安曇野にはいない種の広がっている様子(温暖化)	
	カブトムシ	夏	雑木林	里山の樹林の自然の豊かさ	
	ギンヤンマ	夏～秋	池・沼	ため池などの池や沼の自然の豊かさ	
	クロスジギンヤンマ	春～夏			
	ヒグラシ	夏	雑木林	里山の樹林の自然の豊かさ	
	ゲンジボタル	夏	水路・水田	農薬をあまり使わない田んぼや水路の自然の豊かさ	
ヘイケボタル	夏	水路・水田	農薬をあまり使わない田んぼや水路の自然の豊かさ		
鳥類	トノサマバツタ	夏～秋	里	農耕地や河川敷の草地の自然の豊かさ	
	ツバメ	春～夏	里	里や周りの自然の豊かさ	
	イワツバメ	春～夏	山・里	山や里の自然の豊かさ	
	ヒバリ	春～秋	畑・川	農耕地や河川敷などの草地の自然の豊かさ	
	カッコウ	春～夏	山・里	山や里の自然の豊かさ	
	オオヨシキリ	春～夏	川	川やその周りの自然の豊かさ	
	カワセミ	通年	川	水辺の自然の豊かさ	
	トノサマガエル	春～夏	水田	昔ながらの田んぼの自然の豊かさ	
	ニホントカゲ	春～秋	山・里	山や里の自然の豊かさ	
	カナヘビ	春～秋	山・里	山や里の自然の豊かさ	
小動物	キツネ	通年	山・畑	山や里の自然の豊かさや変化	
	アブラコウモリ	春～秋	里	里やその周りの自然の豊かさ	
	オオブラクサ	夏～秋	里	外来植物の広がっている様子	
	アオマツムシ	夏～秋	里	外来昆虫の広がっている様子	
	ヨタカ	春～夏	山	里山の樹林の自然の豊かさ	
	トウキョウダルマガエル	春～夏	水田	よく分かっていないカエルの生息状況	
	ハクビシン	通年	山・里	増えつつあるほ乳類の様子	
	そのほか情報を集める生きもの		季節	生育・生息場	調べて分かること
	植物	オオブラクサ	夏～秋	里	外来植物の広がっている様子
	昆虫	アオマツムシ	夏～秋	里	外来昆虫の広がっている様子
鳥	ヨタカ	春～夏	山	里山の樹林の自然の豊かさ	
小動物	トウキョウダルマガエル	春～夏	水田	よく分かっていないカエルの生息状況	
	ハクビシン	通年	山・里	増えつつあるほ乳類の様子	

## 2. 調査結果

### 2.1 記録が寄せられたメッシュ

図 2.1.1 に情報が寄せられたメッシュ分布を示す。安曇野市内で 119 メッシュ、周辺町村も含めると 121 メッシュで情報が寄せられた。

情報が寄せられたメッシュは、調査対象種の主な生息域である市内の住宅地から山麓にかけてほぼ連続して分布しているが、北部でやや空白部がみられた。

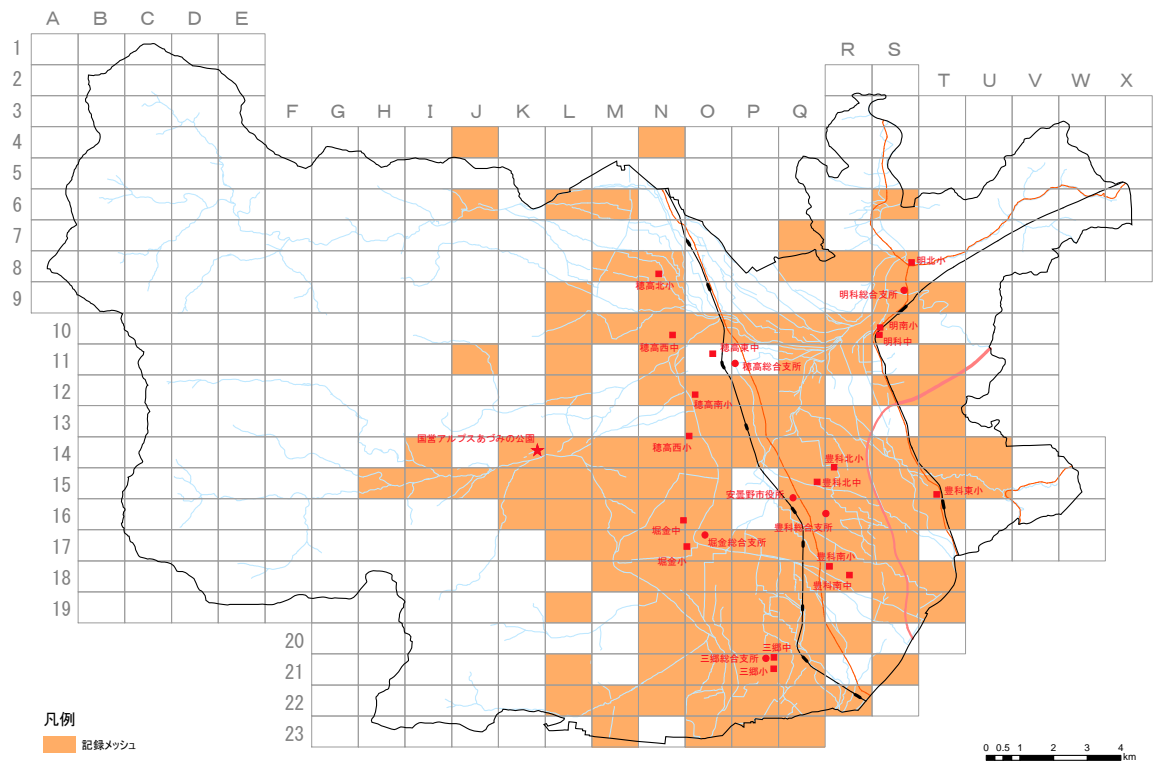


図 2.1.1 生きもの情報が寄せられたメッシュ分布

## 2.2 記録メッシュ数

表 2.2.1 に全対象種の確認メッシュ数について示す。

調査対象種全てについて平成 19 年における生育・生息情報が寄せられた。そのうち確認メッシュ数が多かったのはツバメ (51 メッシュ) セイヨウタンポポ (35 メッシュ)、カッコウ (34 メッシュ)、シナノタンポポ (33 メッシュ) などであった。

表 2.2.1 調査対象種の確認メッシュ数

確認メッシュ数	種 名
1～5 (7 種)	クロスジギンヤンマ、アオマツムシ、シマドジョウ、ハクビシン、シロバナタンポポ、ゲンジボタル、ヨタカ
6～10 (10 種)	バイカモ、イワツバメ、オオブタクサ、カジカ、カワセミ、オオヨシキリ、カナヘビ、ホウネンエビ、ヘイケボタル、トウキョウダルマガエル、
11～20 (9 種)	ツマグロヒョウモン、ウツボグサ、キツネ、アレチウリ、ワレモコウ、ギンヤンマ、セリ、カワニナ、ニホントカゲ
21～30 (6 種)	ヒグラシ、ヒバリ、アブラコウモリ、ドジョウ、サワガニ、トノサマバッタ
31～40 (5 種)	セイヨウタンポポ、カッコウ、シナノタンポポ、トノサマガエル、カブトムシ
41～ (1 種)	ツバメ

注) 太字にゴジックで表記した種が身近な生きもの調査対象種を示す。

## 2.3 特徴的な種の生育・生息情報

### 2.3.1 シナノタンポポ、セイヨウタンポポ

記録メッシュ数はシナノタンポポ 33 メッシュ、セイヨウタンポポ 35 メッシュとほぼ同じであり、メッシュ分布も同様な傾向であった。

安曇野市では、在来種であるシナノタンポポも広い範囲に分布していた。

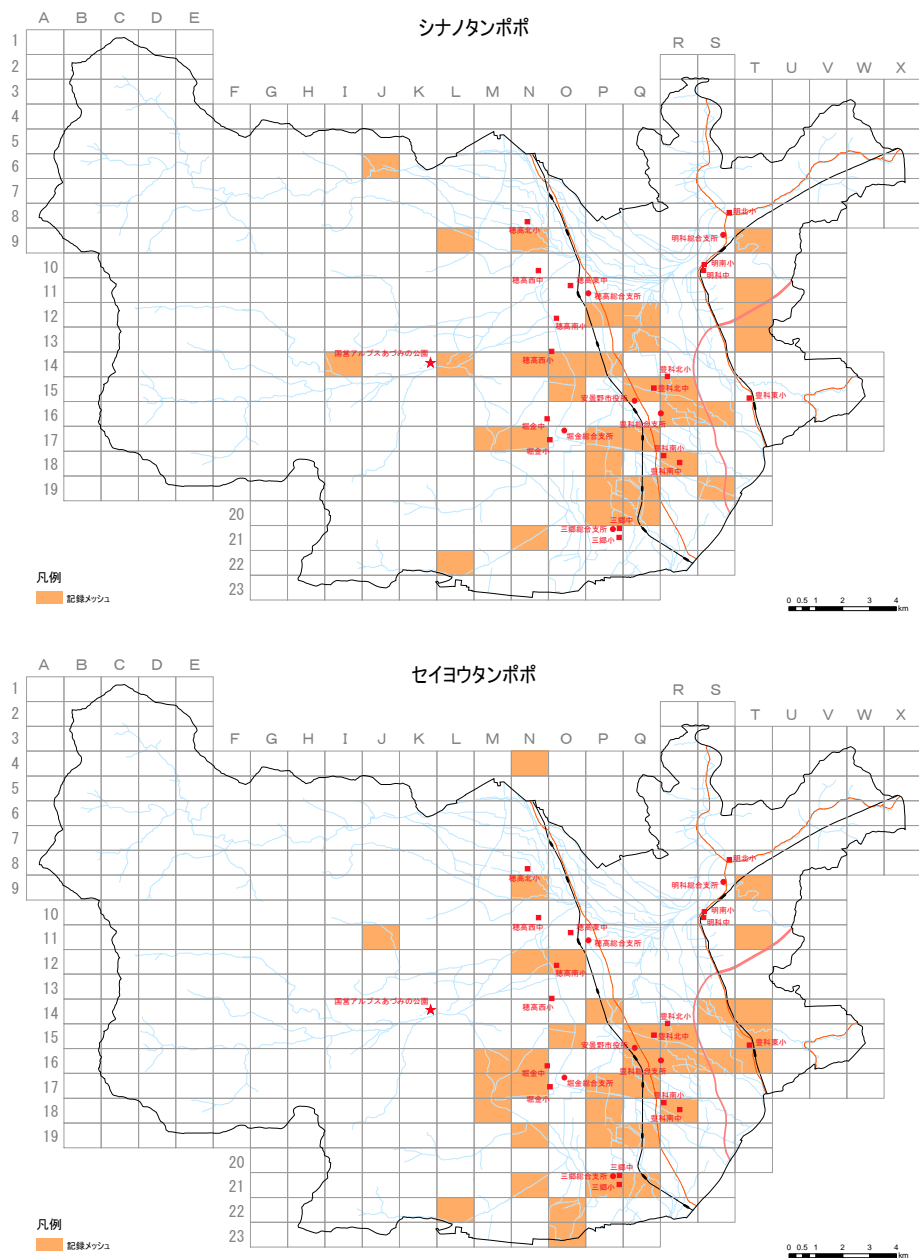


図 2.3.1 シナノタンポポ（上）とセイヨウタンポポ（下）の記録メッシュ分布

### 2.3.2 バイカモ

水のきれいな小川や用水路に生育するバイカモは 9 メッシュで記録があった。

豊科、穂高、明科地域の水路や小河川での記録が多かったが、堀金地域からの記録もあった。

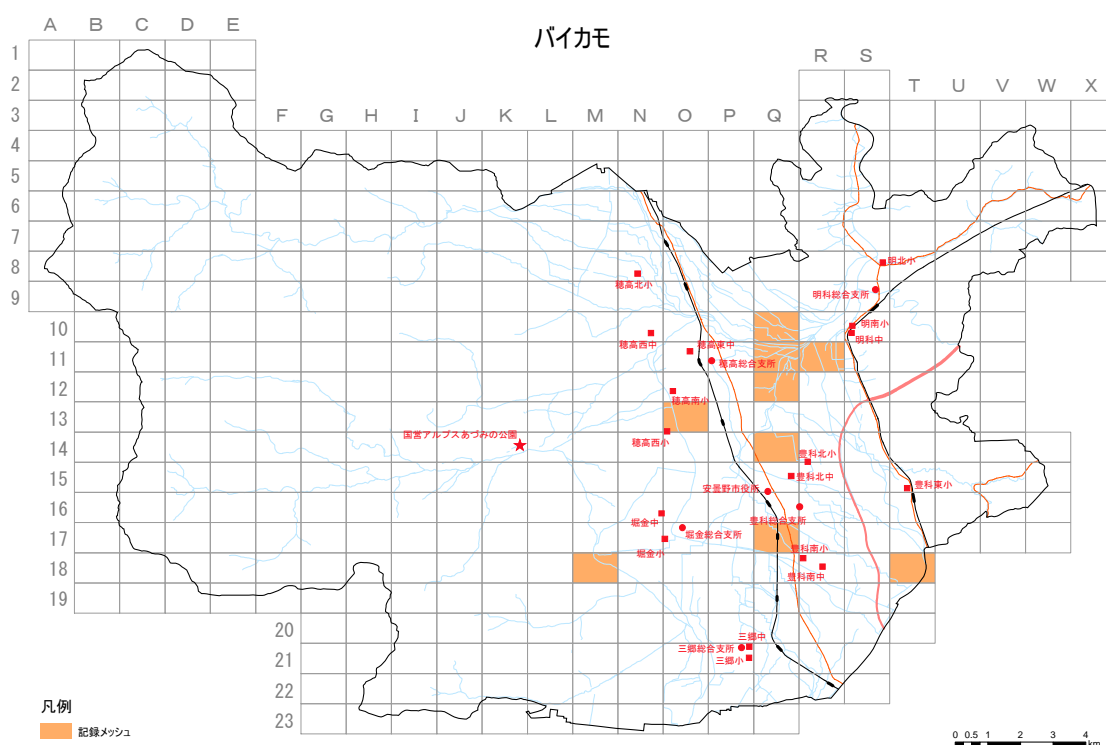


図 2.3.2 バイカモの記録メッシュ分布

### 2.3.3 アレチウリ

他の植物を枯らすことから、各地で駆除活動が行われている外来植物であるアレチウリは、16 メッシュで記録があった。

メッシュ数はまだ多くはないものの、市内の広い範囲の河川や水路などで確認されていることから、今後より分布が広がっていく可能性が考えられる。

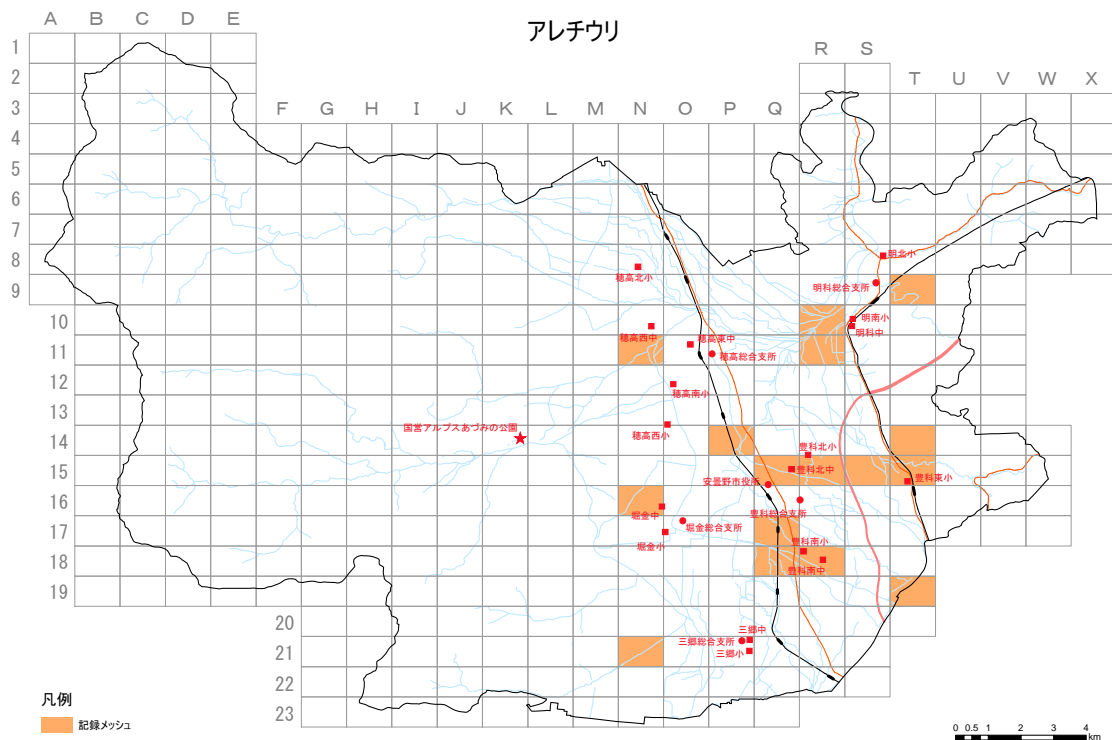


図 2.3.3 アレチウリの記録メッシュ分布



### 2.3.4 ツマグロヒョウモン

ツマグロヒョウモンは、本州中部以南の暖かい地域に分布するチョウであり、最近では分布域が北上していることから、地球温暖化との関連が指摘されている。安曇野市内では平成6年に三郷小学校校庭で幼虫が確認され、以降少しずつ分布を拡大している。



記録メッシュ数は19メッシュであり、市内南東部の豊科地域や三郷地域での記録が多く、これらの地域では連続して分布している傾向がある。

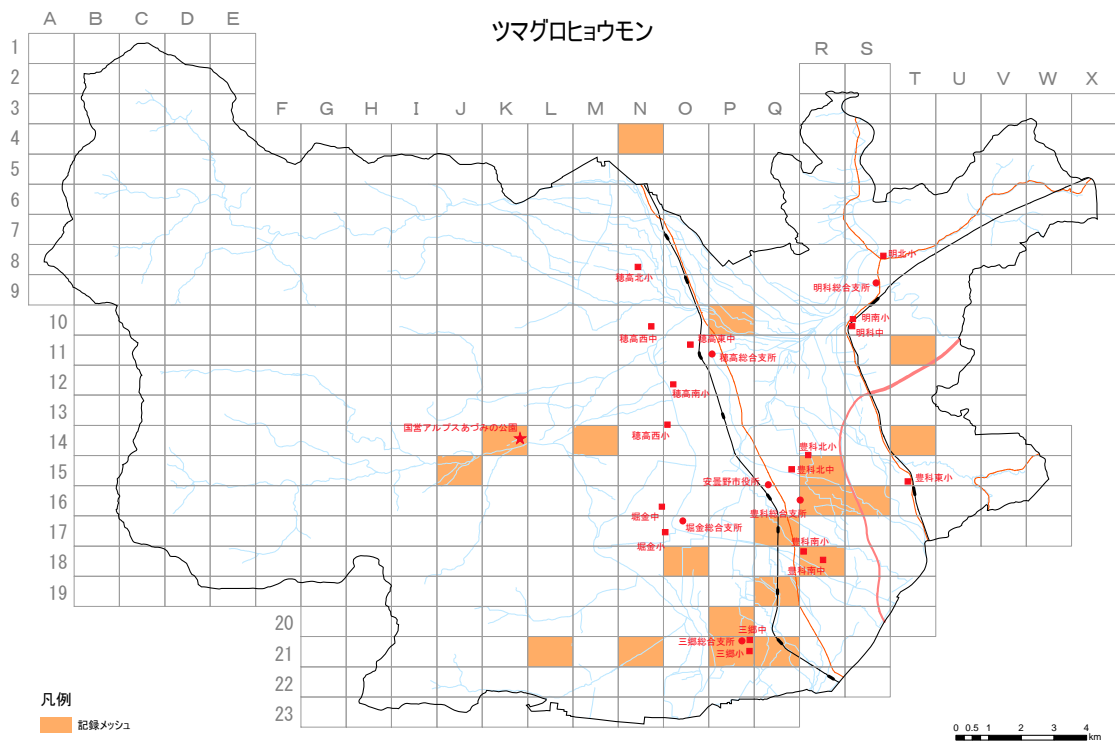


図 2.3.4 ツマグロヒョウモン記録メッシュ分布



### 3. 今後の課題

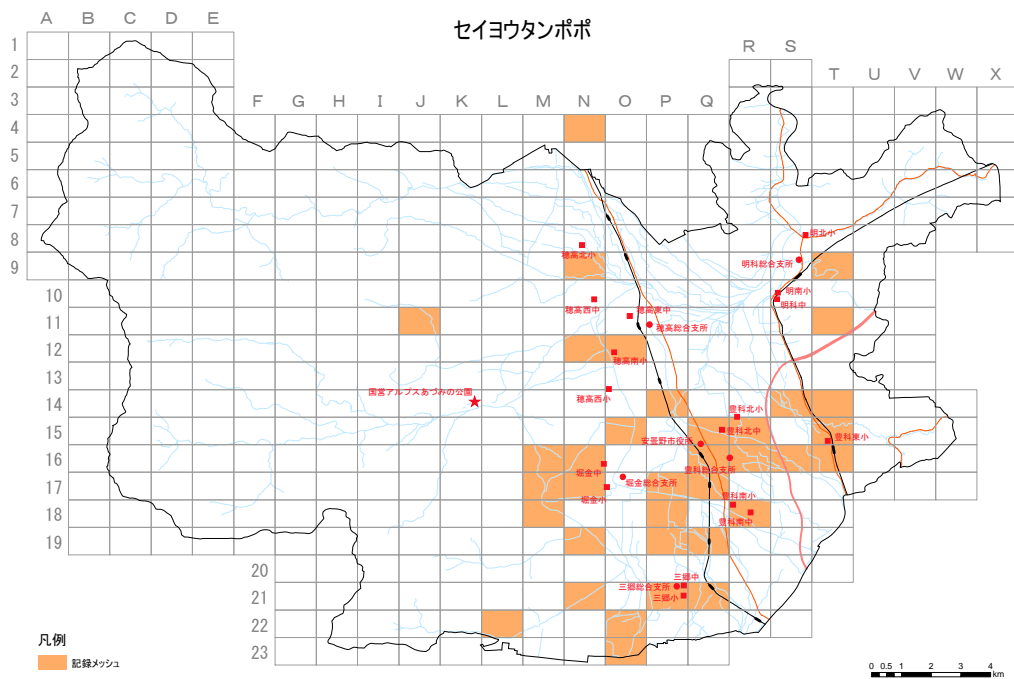
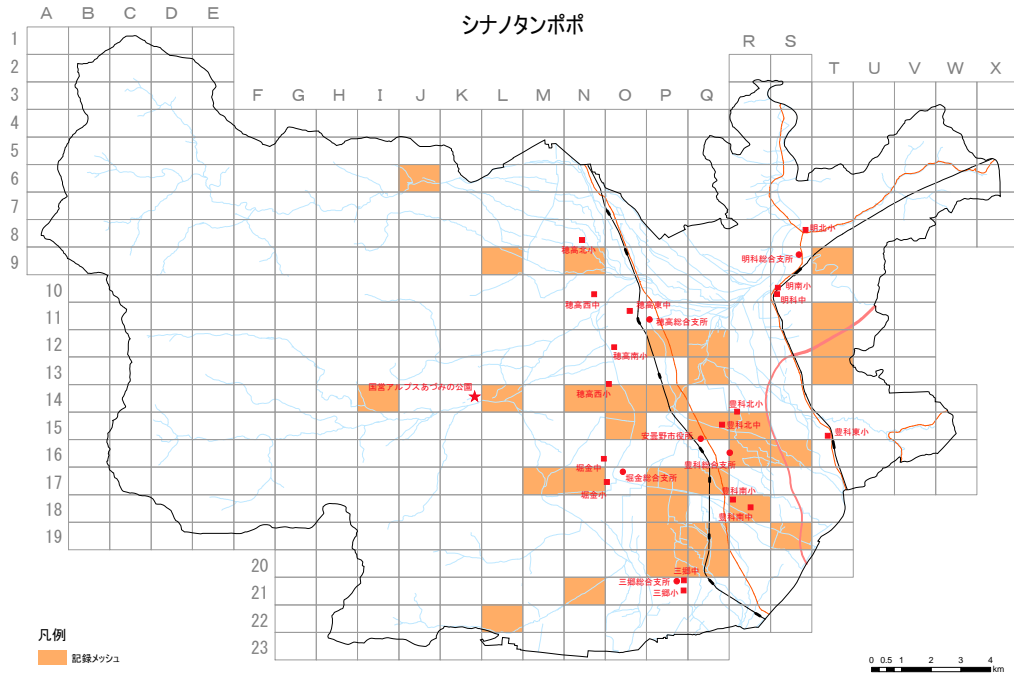
今回の調査は、安曇野市における市民参加型の生物調査としては初めての試みであったが、対象とした身近な生きものの市内における分布の大枠を把握する点では一定の成果があったと考えられる。

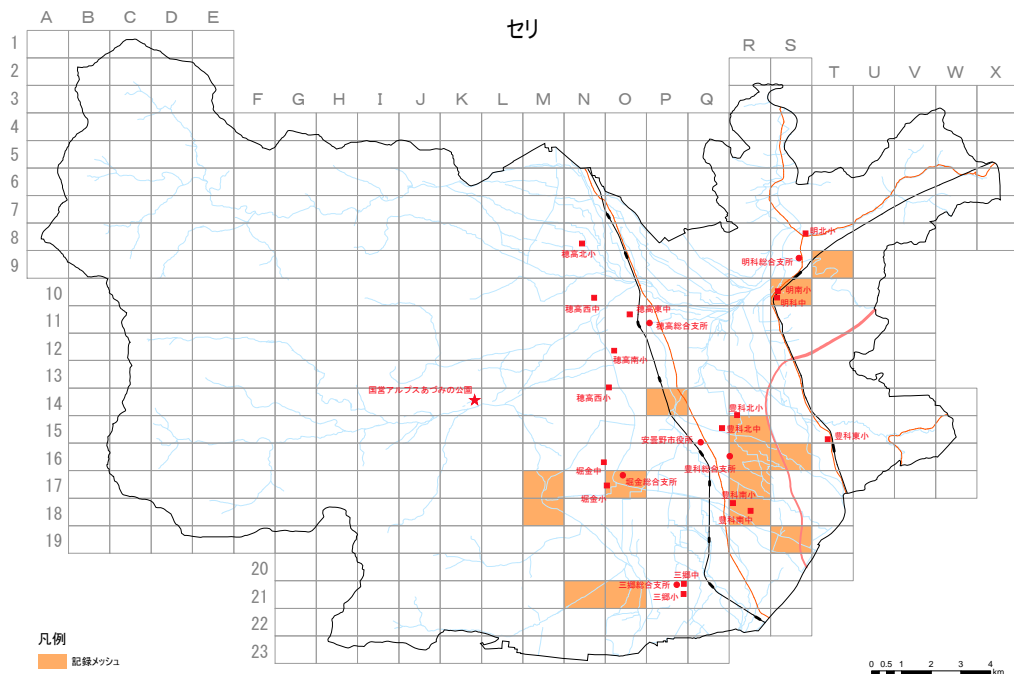
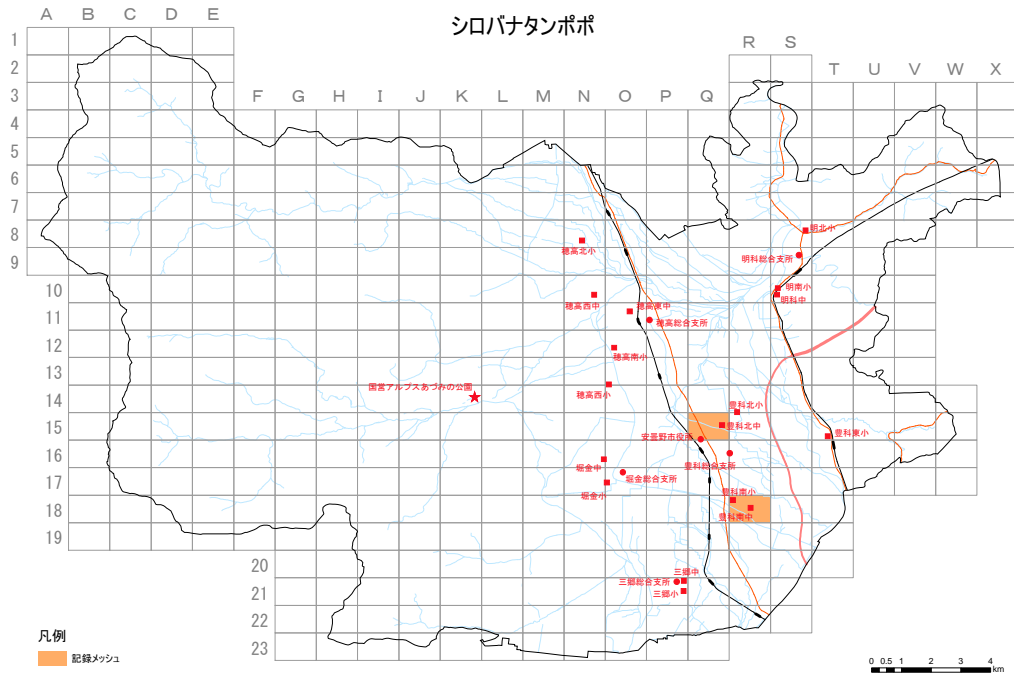
その一方で、情報が全く寄せられなかった空白地域も少なからず存在したことは、市民からの情報提供に頼る調査方法の限界を示したともいえる。

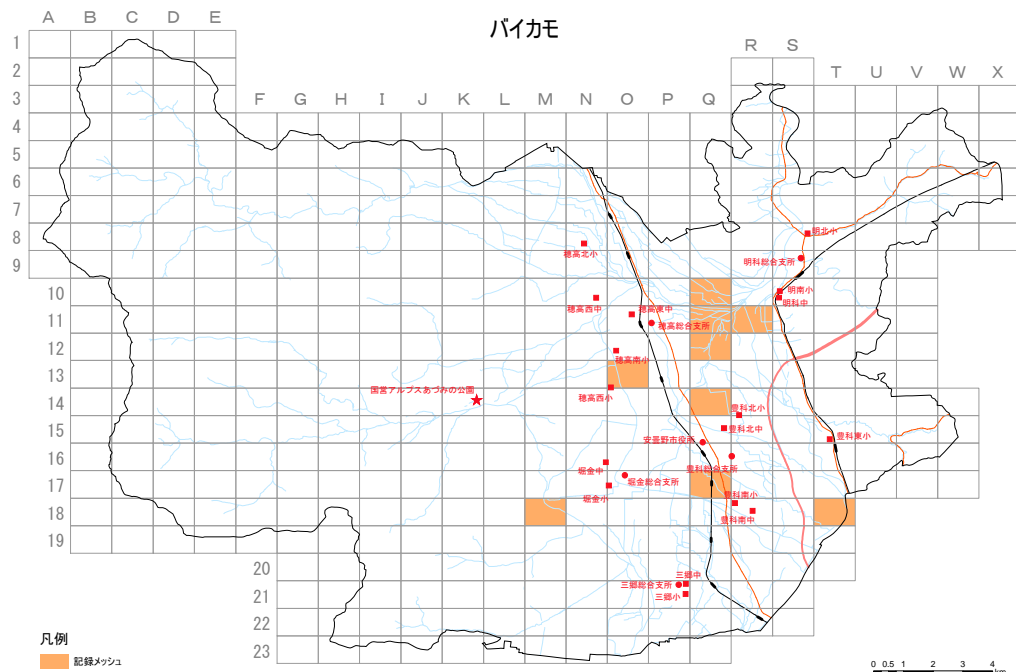
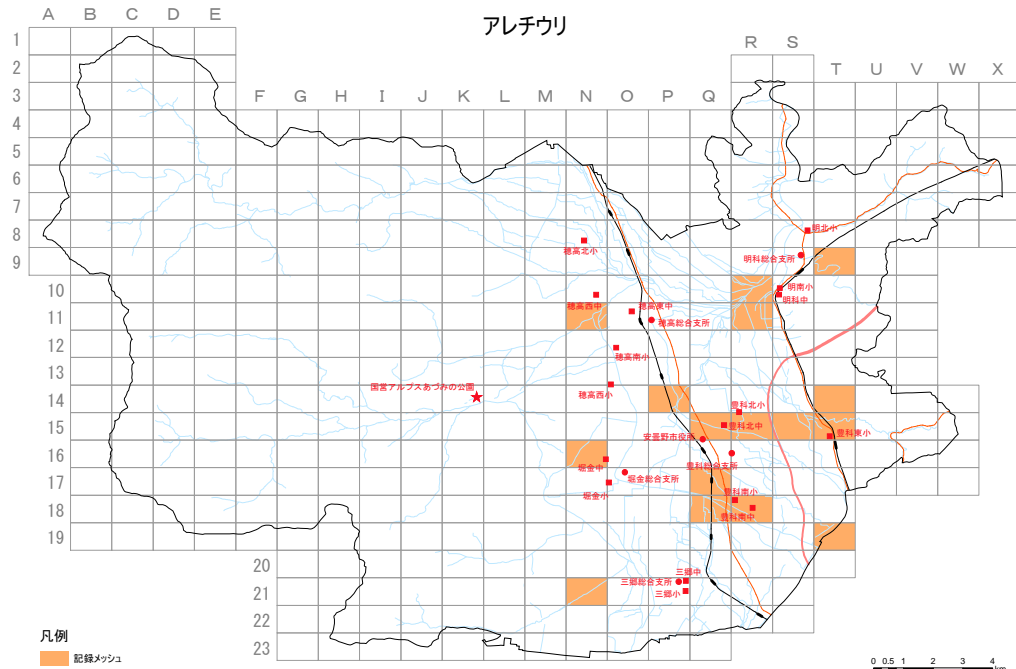
今後は、今回の調査結果をより有効なものにするため、空白地域をなくすような調査体制を検討することが望ましい。その一例として、市民から調査参加者を募集し、希望者に調査エリアを割り振ることにより、調査の空白地域をなくすような体制が考えられる。

#### 4. 調査対象種の記録メッシュ分布図

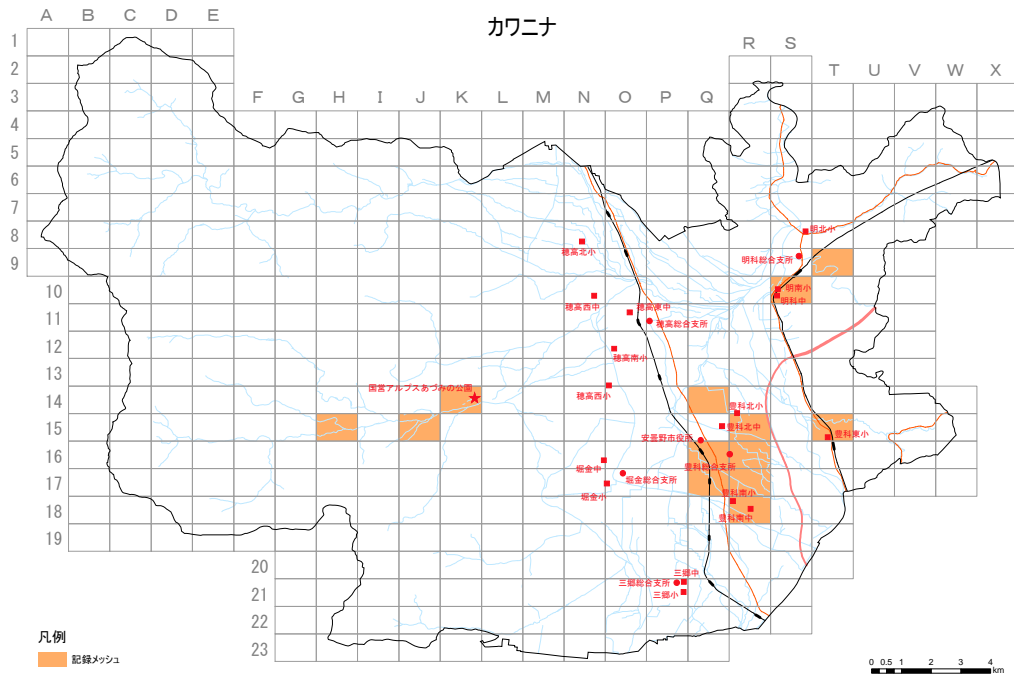
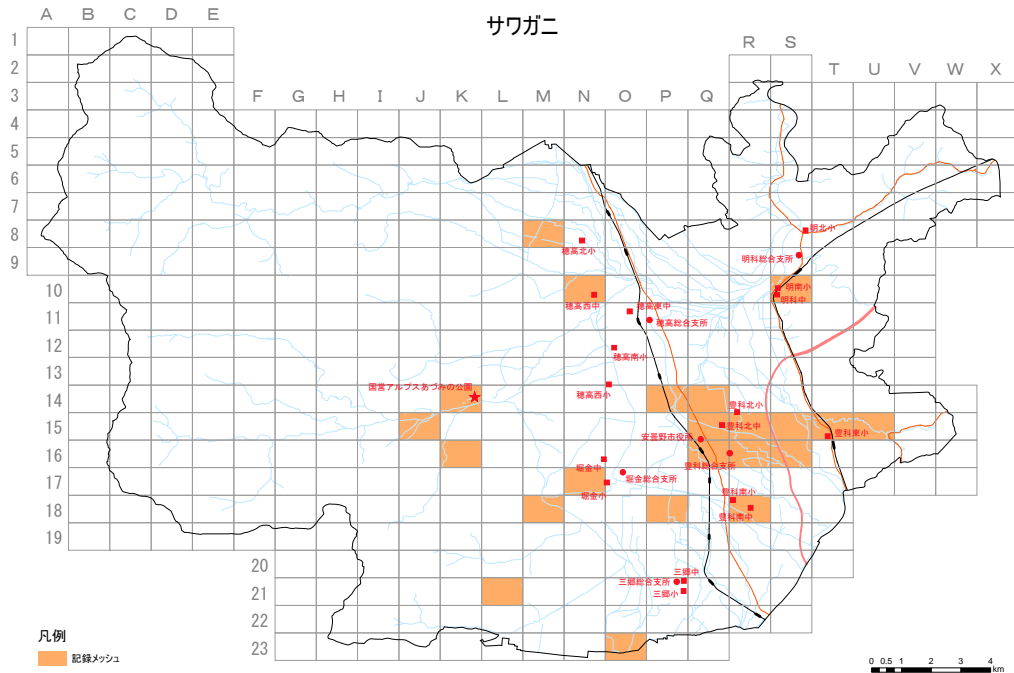
##### 4.1 身近な生きものの調査対象種

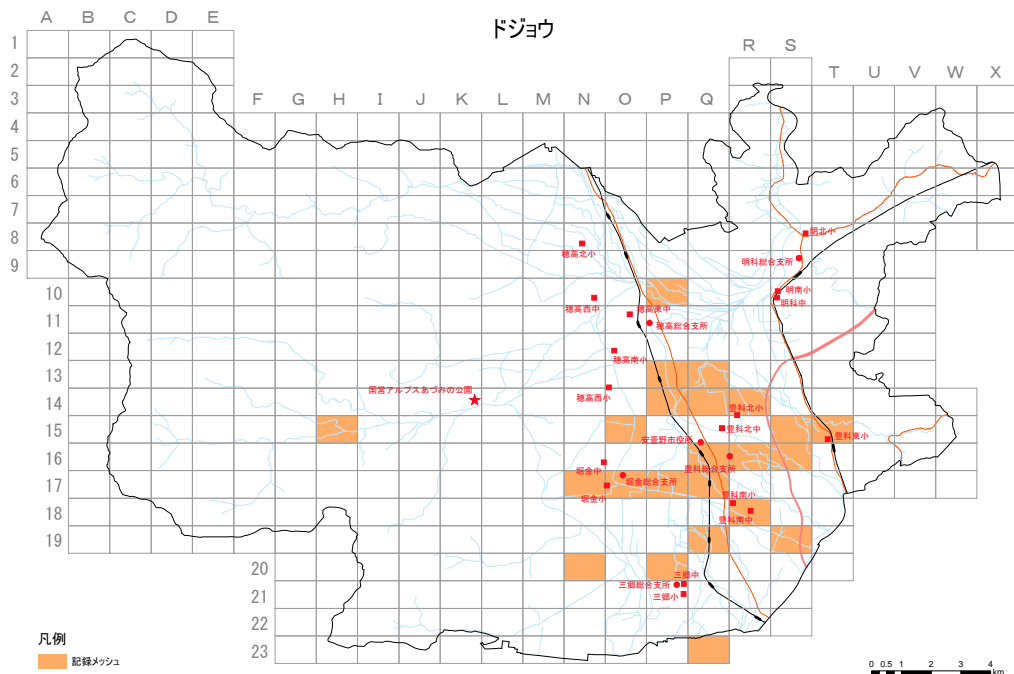
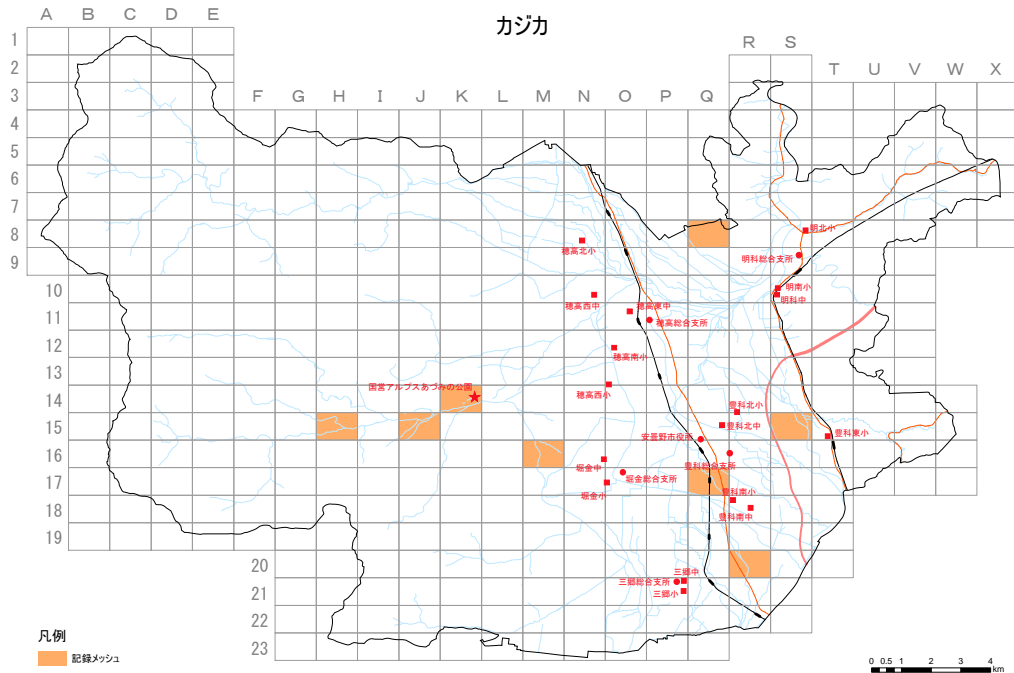




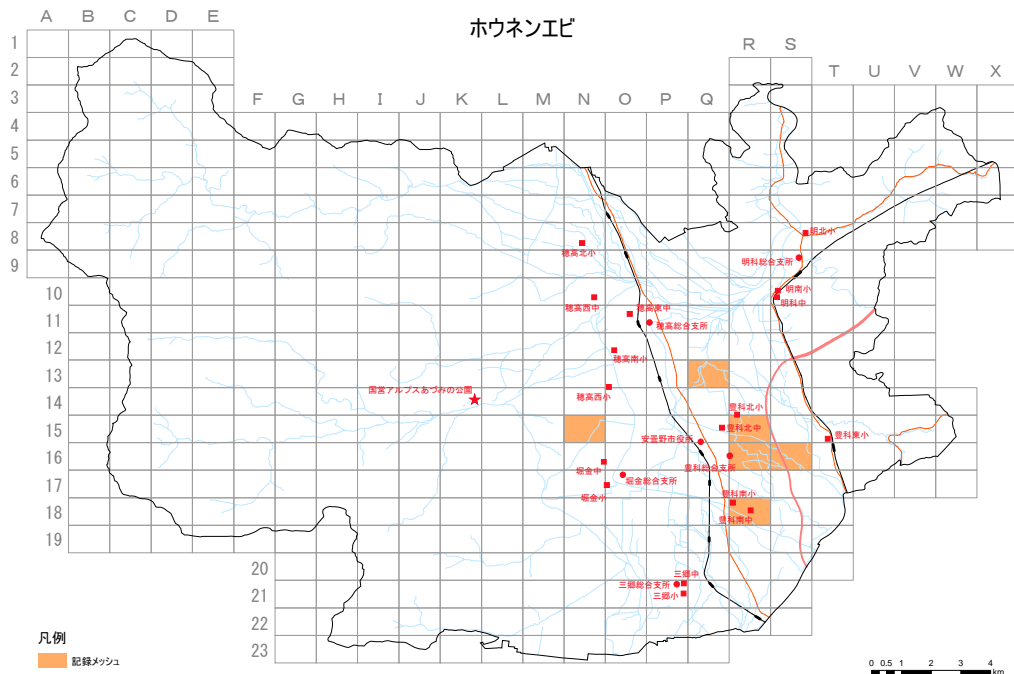
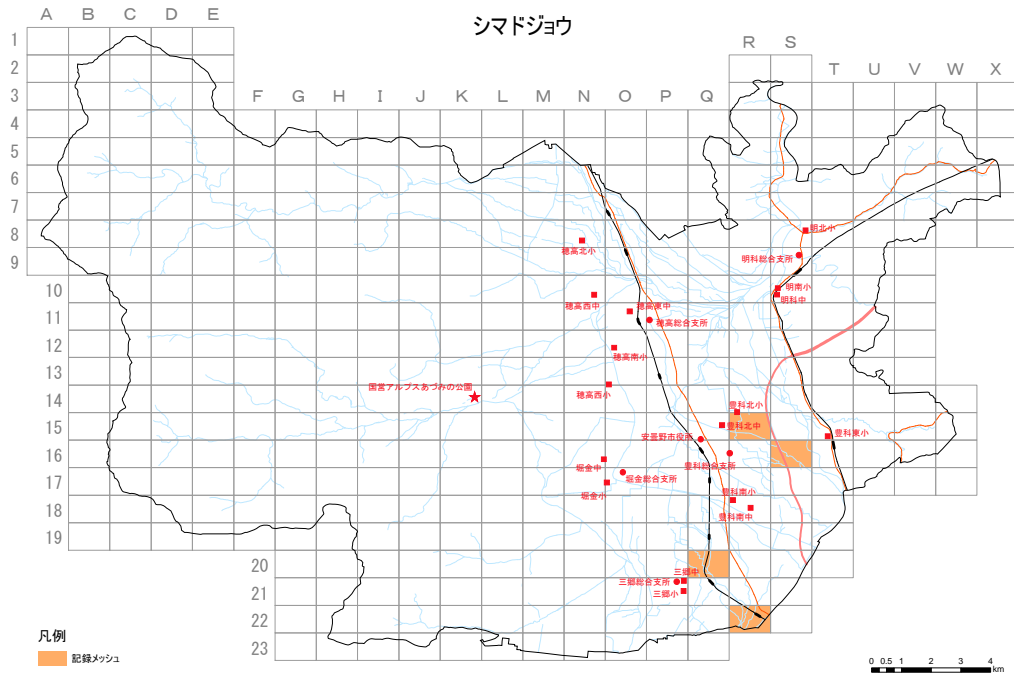


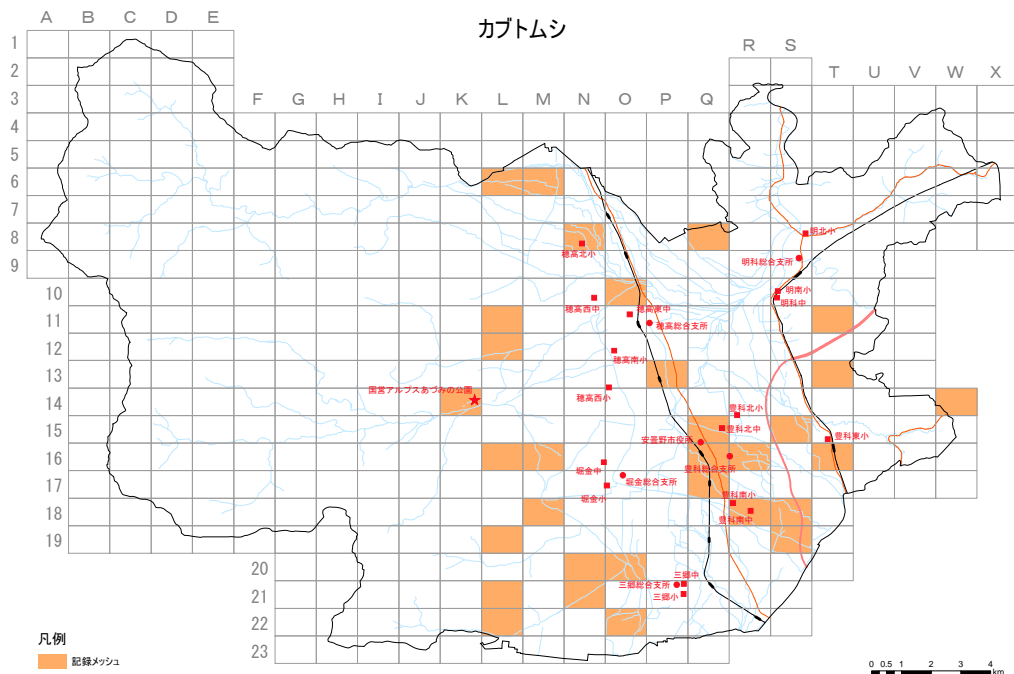
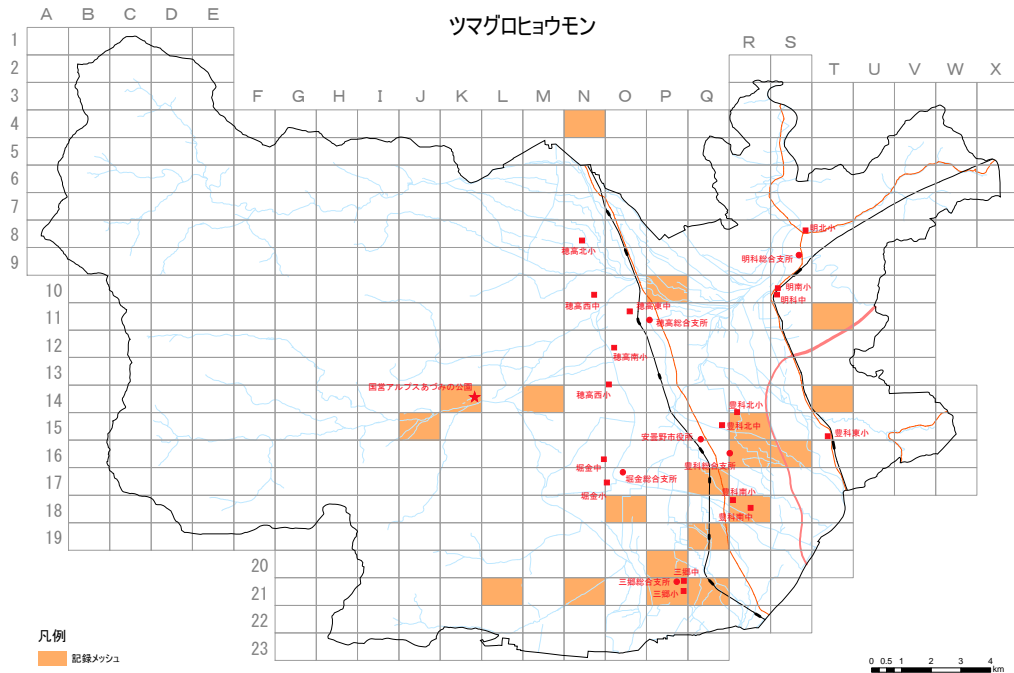


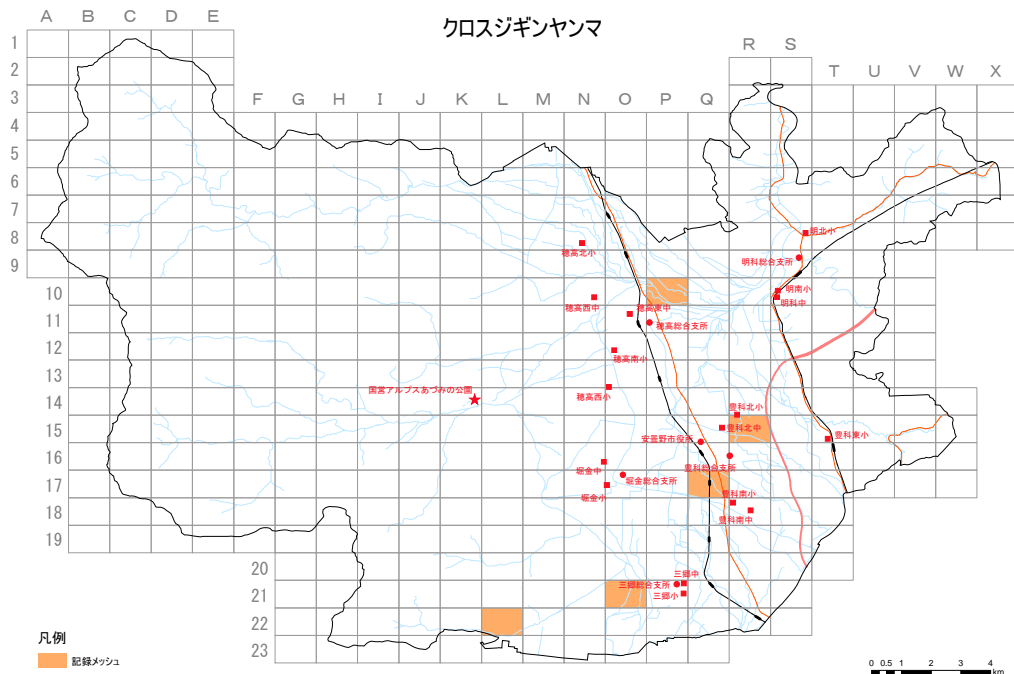
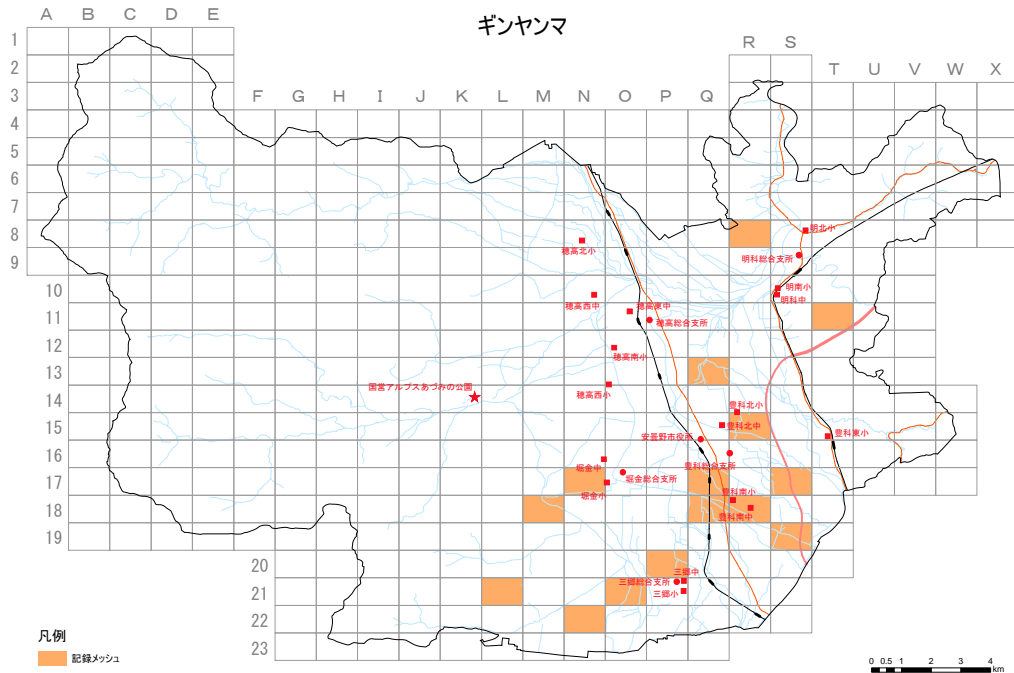


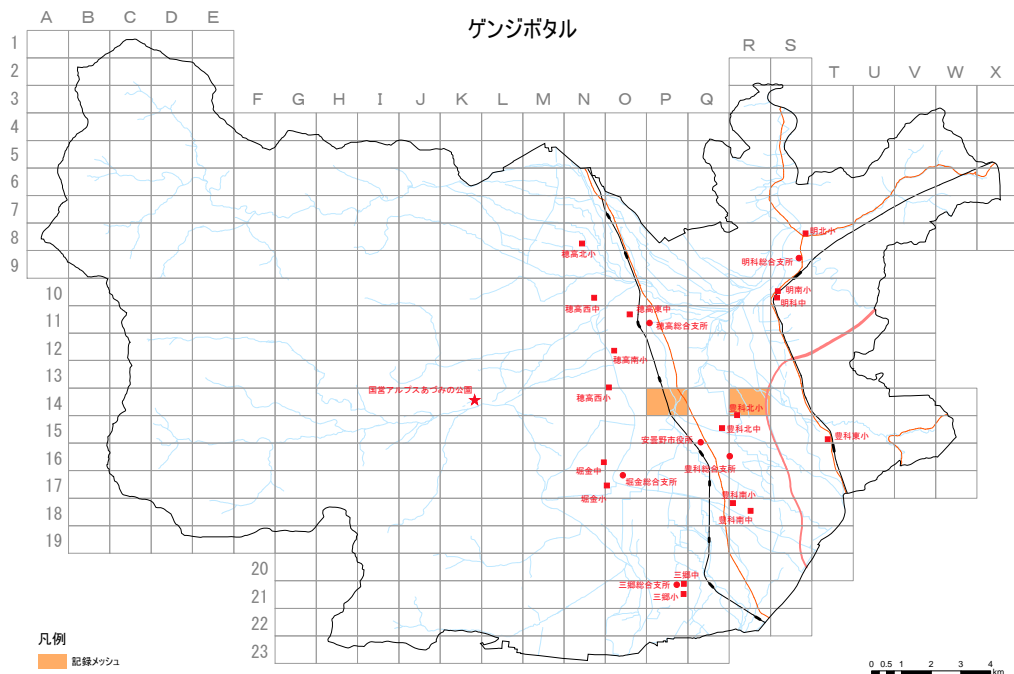
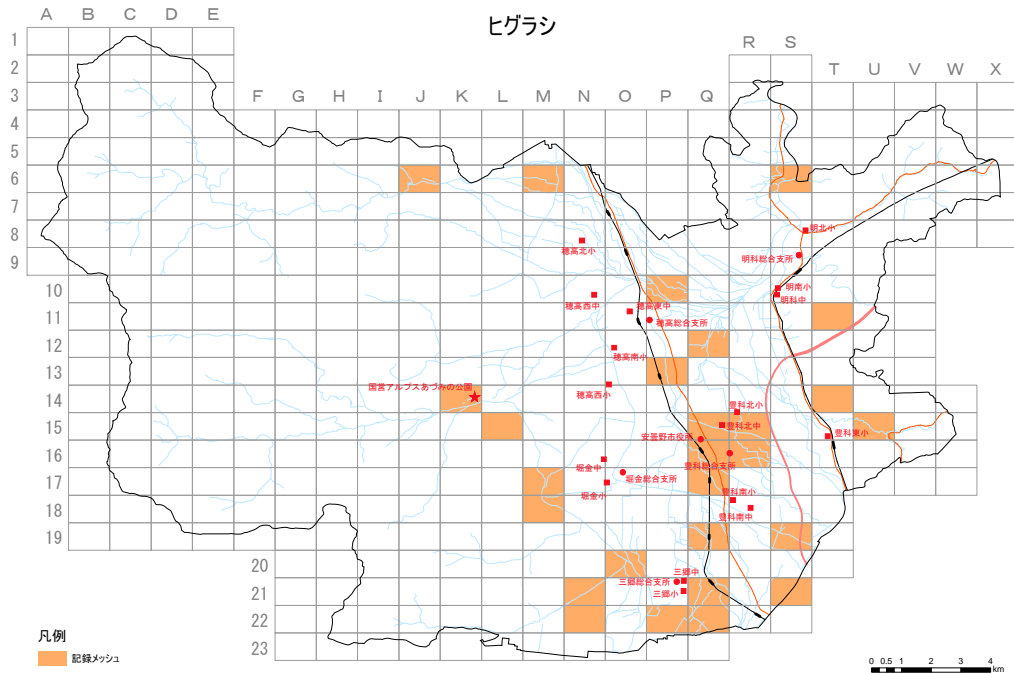




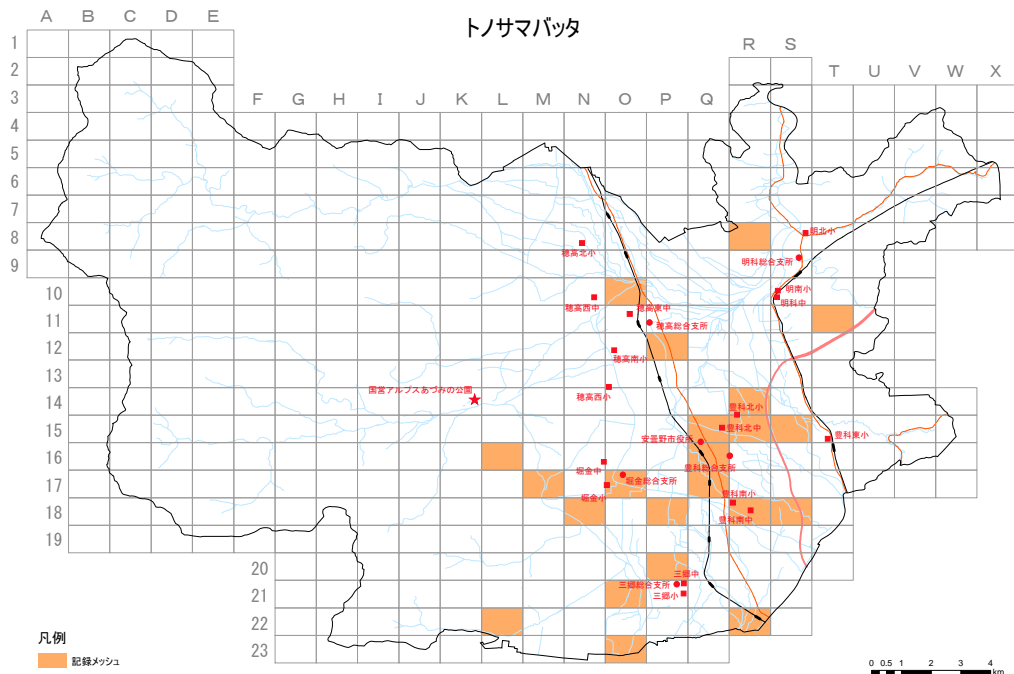
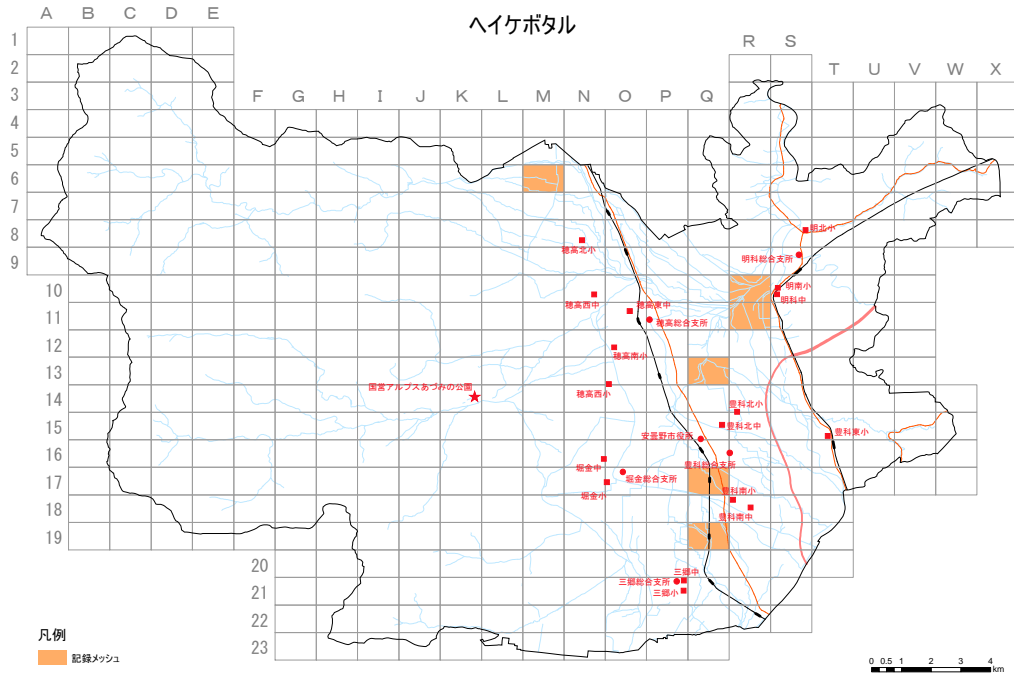


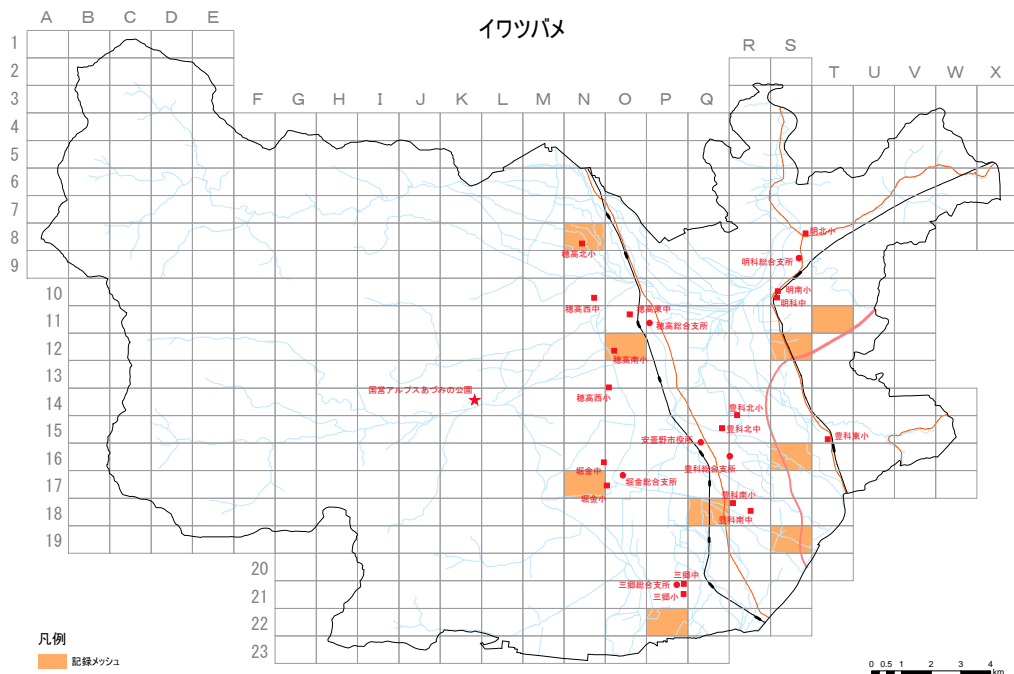
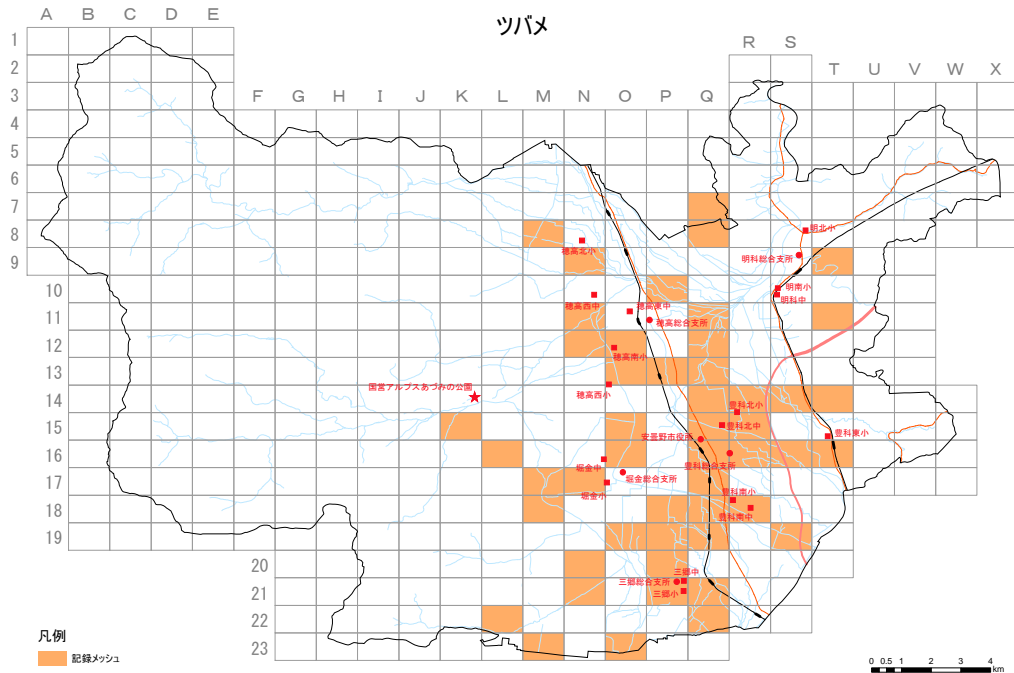


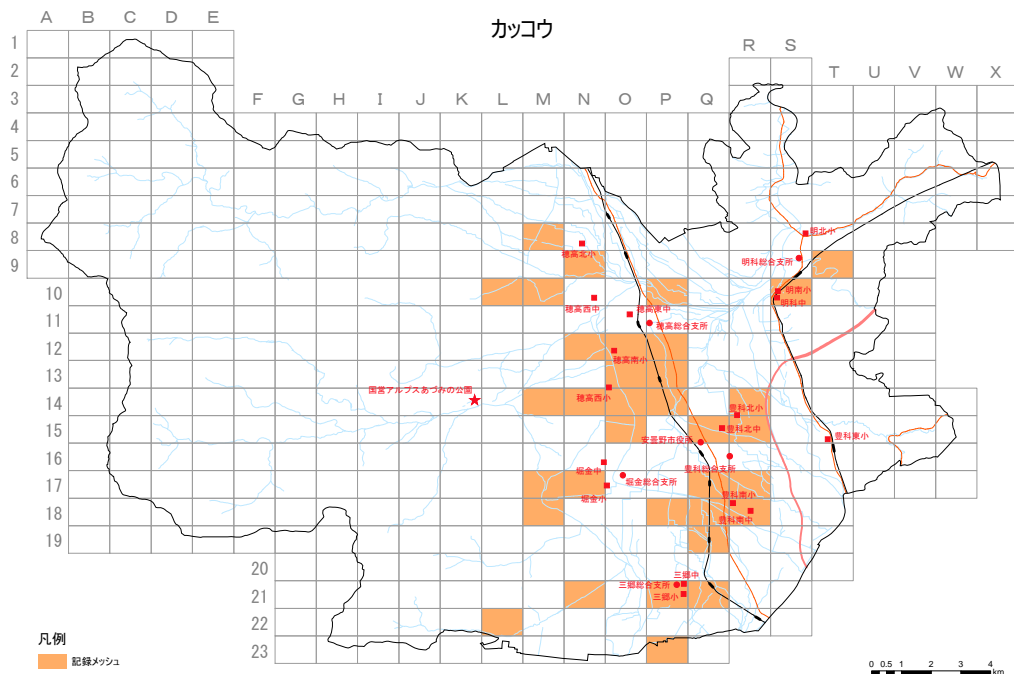
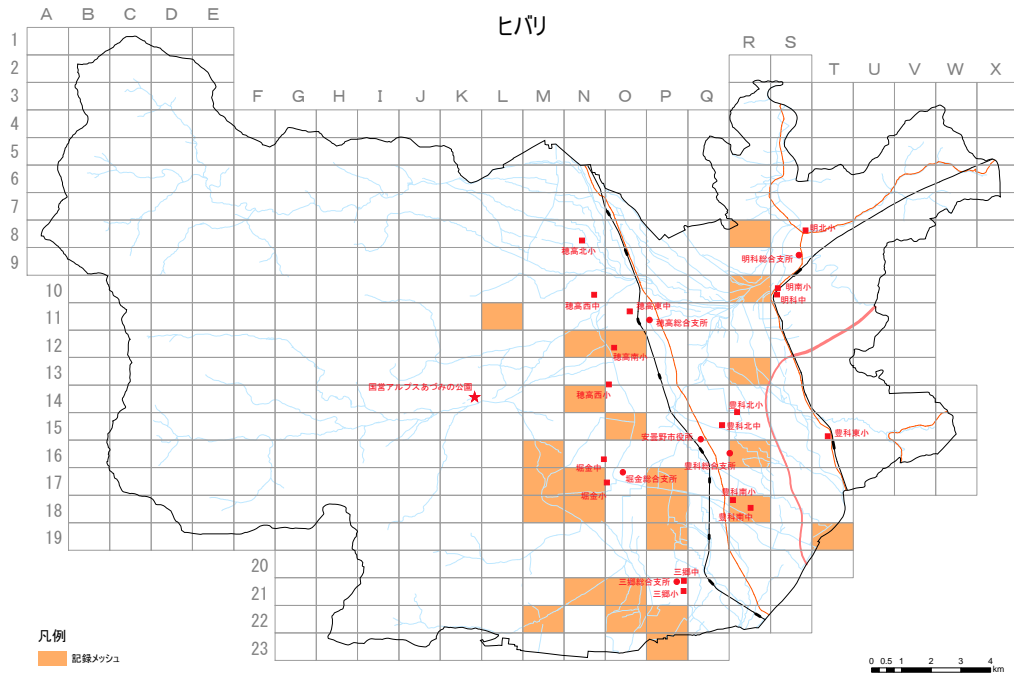




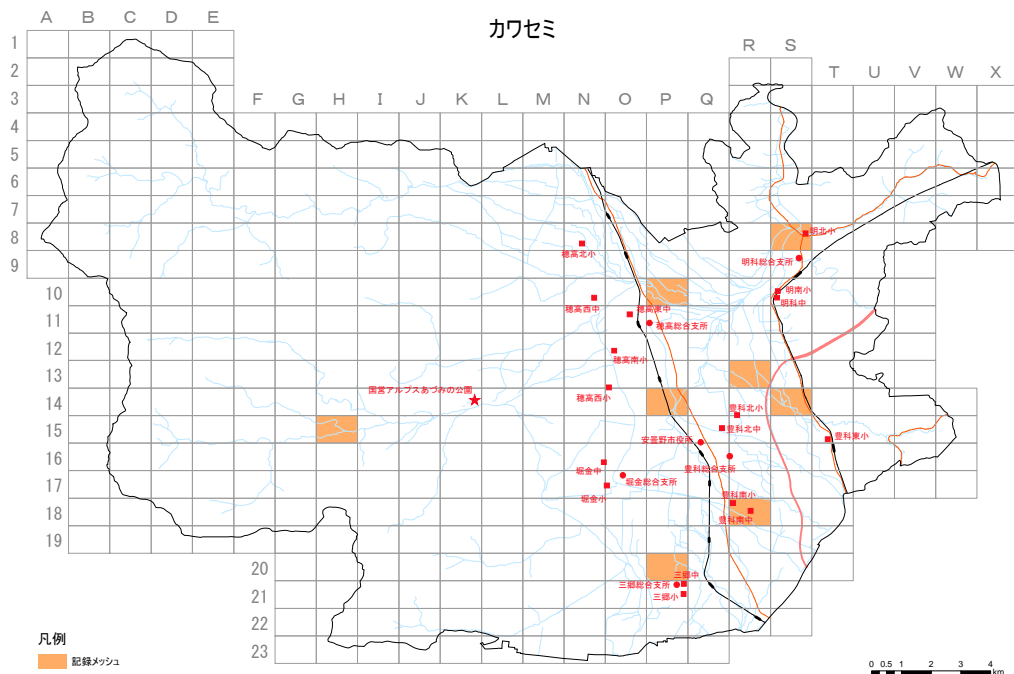
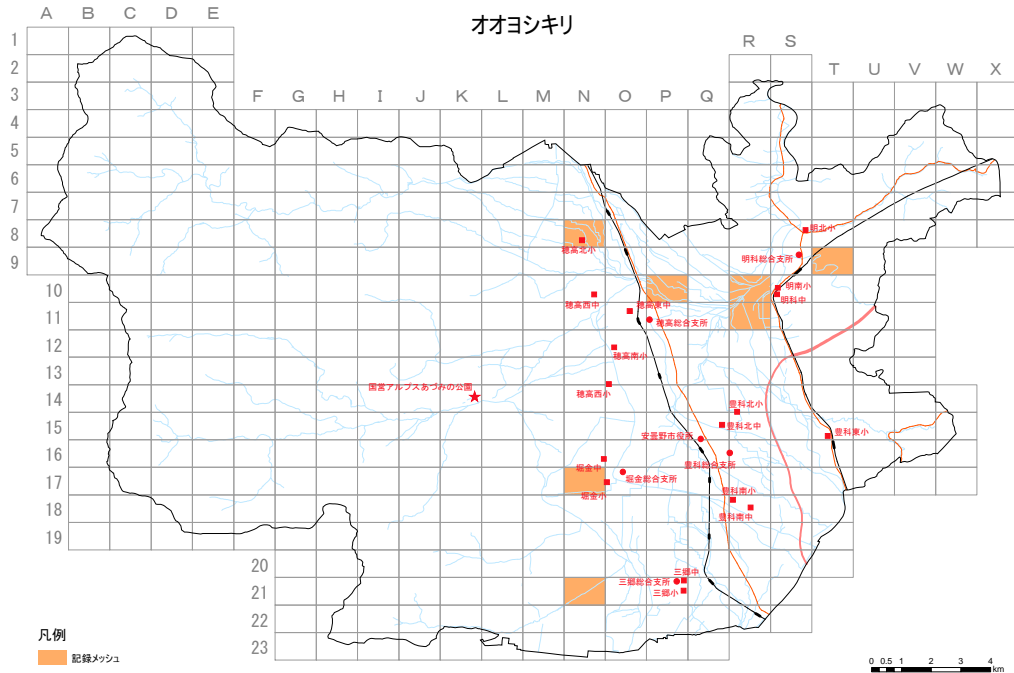
注) ゲンジボタルは確認月が8月と10月と報告されていることから、誤認の可能性がある。

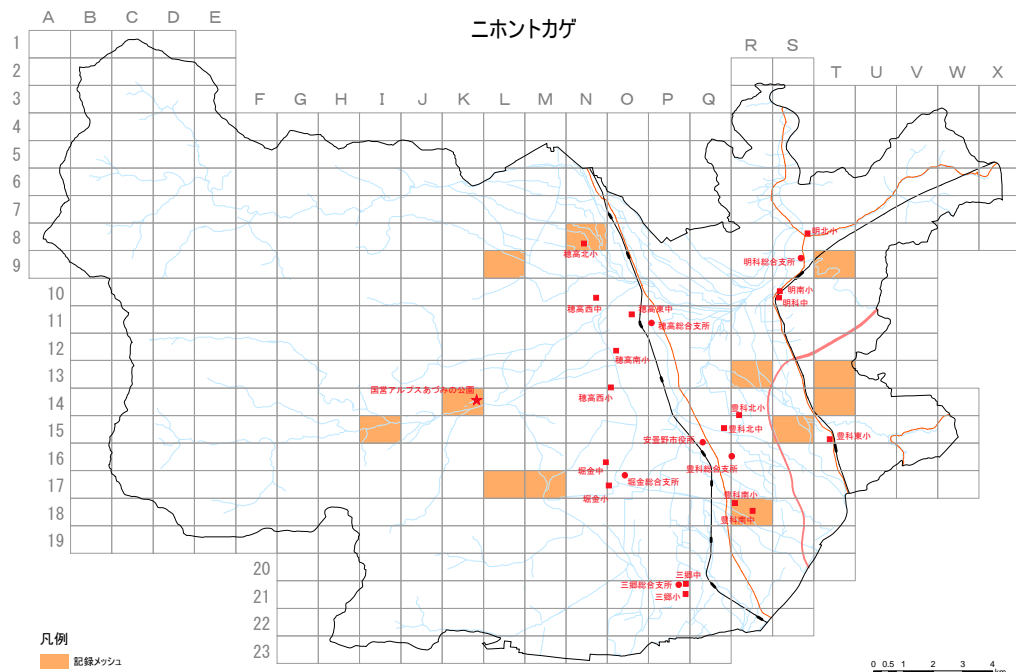
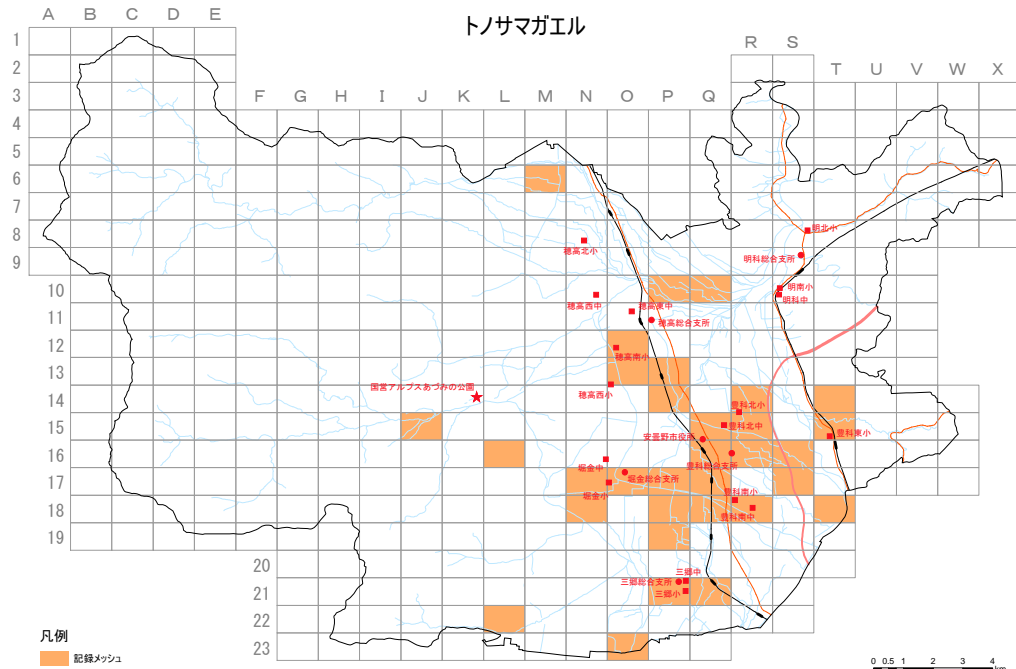


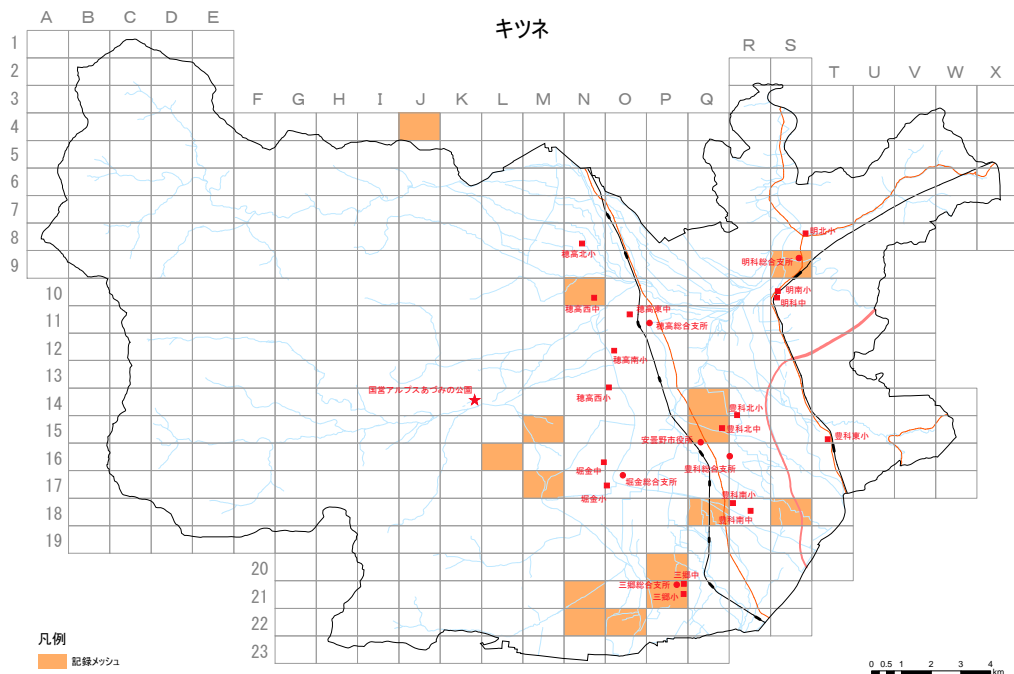
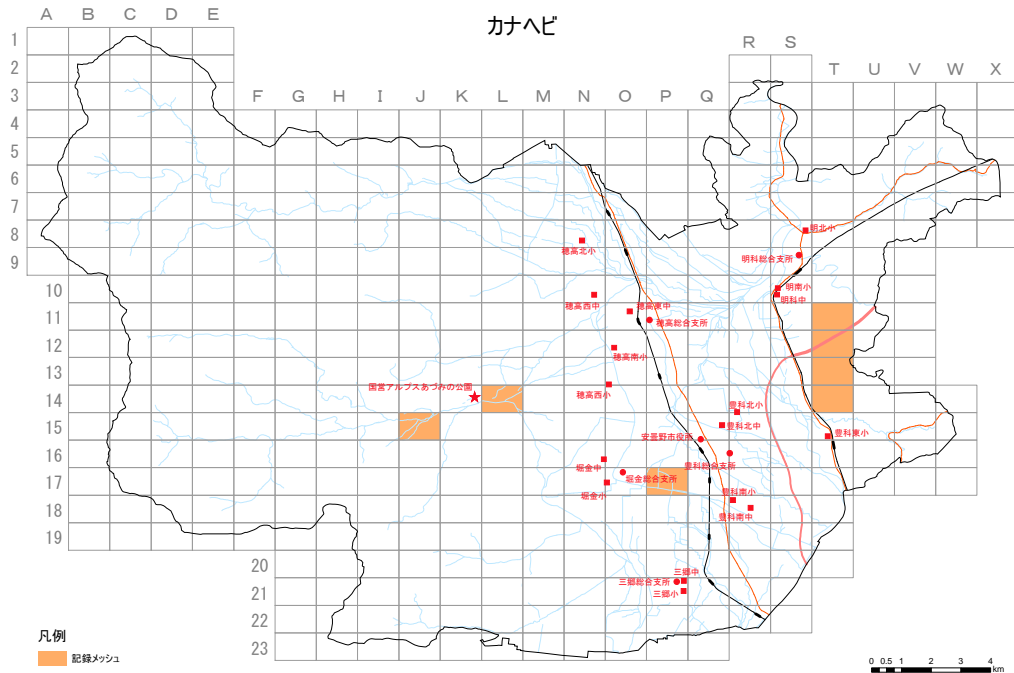


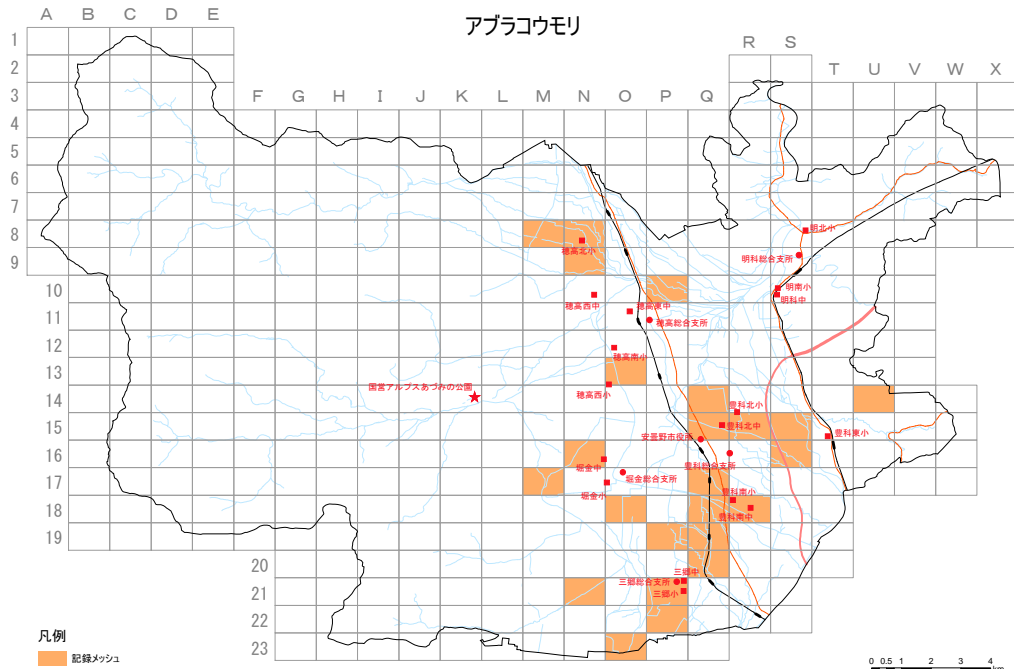












4.2 そのほか情報を集める生きものの記録メッシュ分布図

